

第2回福崎町総合教育会議会議録

開催日時 平成27年12月3日(木) 13時30分～15時50分
開催場所 福崎町役場 2階 大会議室
出席委員 福崎町長 嶋田正義
福崎町教育委員会 教育長 高寄十郎
教育委員 石川 治、桑谷祐顕、藤本照子、谷口喜久美
事務局 社会教育課長 山下健介、
学校教育課副課長 岩木秀人、学校教育課主査 宮本江利子
傍聴人 なし
オブザーバー 福崎町総務課長 尾崎吉晴

(司会) 社会教育課長 (議事進行) 嶋田町長

1. 開会

2. あいさつ

嶋田正義町長からあいさつがありました。

(嶋田町長) 自律(立)のまちづくりの資料をお願いします。今日このように会をもたせていただいたのですが、私の任期は12月17日までです。18日以降は新しい町長さんになります。ですから、この会に参加させていただき、いろいろ話し合いをさせていただいたのは、この2回でおしまいになります。大変申し訳ないことだと思っています。しかし、前に「福崎町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の中で2つ決めていただいています。第一は、「日本国憲法、教育基本法及び福崎町第5次総合計画を福崎町教育行政の指針とします。」ということと、2つめには、「福崎町第5次総合計画基本構想及び基本計画に則り、福崎町教育を推進します。」ということです。ですから、私は今日一番最初の話を、まず、私がどんなふうに福崎町の町政を思い、教育を思ってきたのかをお話しさせていただいて、みなさんと意見交換できたらいいなと思っています。私は町政をすすめるというこのは、やっぱり町民のみなさんの願いを町政にいかすことだと思ってきましたので、町民のみなさんの声というのを大切にしようと思いました。これは、第4次総合計画、今から10年前につくったわけです。それから、去年の12月、ちょうど1年前ですね、第5次の総合計画をつくりました。そして、そのどちらにも、全所帯のアンケートをもらったわけです。そして共通しているのが、町民のみなさんの願いというのはこの4つかなというふうにまとめたわけです。1つは、元気で各方面で活動ができ、病気になったときは安心してお医者さんに診てもらえること。2つ目が、働く場所があって、収入が補償され、そのお金を遣って買い物やレジャーを楽しめること。そして3番目が、いじめを受けず、差別されず、地域・職場・学校等で仲良く集団生活ができること。第4番目は、社会的にも自然的にもよい環境の中で、安心して生活ができること、というだいたいこの4つではないかとまとめさせていただいたわけです。その下に、自律(立)の心を育て、参画と協働のまちづくりというふうにしておりますのは、これは裏側の真ん中に書いてあります、柳田國男さんの著書には「村は住む人のほんの僅かな気持から、美しくもまづくもなるものだといふことを、考へるような機会が私には多かつた。」と書かれておられて、私は、この言葉が大変好きでありまして、

毎日全力で活動する・行動するということはできませんけれども、ほんのわずかな気持ちでも「よいまちにしよう」という、そういう方が1人でも2人でも増えていくことがよいまちになるのではないかと、このように考えて、「自律（立）の心を育て参画と協働のまちづくり」を大きな柱にいたしました。そして、いざ町政にとりくむといたしますと、福崎町に一番欠けていることを実行する、というのが一番いいと思われました。いま福崎町に欠けていることはその4つだとおもったのです。1つは、「科学の心で知を力にしたまちづくり」、2つは「もてなしの心で共に生きるまちづくり」、3番目が「食育で健康なまちづくり」、4番目が「地産地消で活力を育てるまちづくり」、この4つが福崎で欠けていると思われました。ですから、この4つをしっかりまもって町政をすすめられればいいまちづくりになるのかなと思ったわけです。学校教育だけに限っていいますと、その1番目になるわけではありますが、「基礎学力を育て、知を力に」というふうにしました。なぜそうなのかといいますと、当時の学力テストの点数は、今年のようにいい点数ではなかったということであります。今年はいずれも皆様が教育委員会で非常に頑張っていたいただいた結果、学力テストは全国的にもいい結果になっています。その当時、それを掲げた当時はそうではなかったもので、これを引き上げるには学校だけで引き揚げもらうということだけでは足りず、町あげて基礎学力の向上のために努力しなければならないということで、町の中心的なもの、それも第1番目にあげさせていただいたわけです。そういう関係から、いろいろ考えましたけれども、私は今まで教育関係以外、ハード面は残念ながらあまりやっていません。プールや学校建設、幼稚園、それからドームの建設という、教育関係は若干取り組んだかもわかりませんが、その他は公共下水道を進めるのに精いっぱい、他にはやっていないといってもいいくらいです。しかしそんな中でも、図書館というのは、基礎学力を育てる、やはり知の殿堂というのでしょうか、情報交換の中心的なものだというふうに考えたものですから、図書館はどうしてもつくりたいというふうに思ったわけであります。それは、知を力にしたまちづくりを進めるために、欠くことのできない施設が図書館だというふうに思ったからそうしたということです。そして2番目に、「もてなしの心で共に生きるまちづくり」ということなのですが、どうしても絆というのでしょうか、向こう三軒両隣の絆がだんだんだんだんだん希薄になっていきつつあるという心配がありまして、特に高齢者が増える中でそういう状況にありましたので、このもてなしの心でともにいきるまちづくり、すなわち絆を強化するというのが福崎町にどうしても大事な課題というふうに思いまして、これを2番目に据えたということであります。そして、第3番目に「食育で健康なまちづくり」これも、福崎町の一番の欠点であるからであります。なにが欠点かといいますと、兵庫県下で一番メタボが多いのが福崎町の小学校の児童という統計がでました。ですから、これも小学校だけで取り組むだけでは足りないなと思ひまして、これも町の一つの大きな課題にしよう、と「食育で健康なまちづくり」というのを掲げたわけです。ただ単に掲げたのではなく、福崎町に欠けているもの、今すぐに取り組まなければ大変なことになるという思いがあって、それぞれ掲げているわけです。ところが、今で何番目くらいになっているんですかね、だいたい7・8番目くらいですかね。

(事務局) だいたい7・8番くらいですかね。

(高寄教育長) そうです。そのくらいです。

(嶋田町長) 残念ながら、兵庫県の7・8番目です、おしりからですよ。一番おしりではないです。それはたしかですが、一番おしりからは脱却していますが、そんなに高い状況でないというのも事実です。これは、非常に大事な課題ということです。市川水系は具合が悪いのです、申し訳ないのですが。一番メタボ率が少ないのは芦屋市なのです。押しなべて私がみてみますと、都市部はメタボ率が低いとうわけです。ここは私の勝手な推測ですから、あとで訂正していただけたらいいのですが、田舎へいく

ほど、自動車の活用率が高いということで、塾へ行くにも子どもを親が運んでいく、というようなことで、あまり運動しません。ところが私、東京へ行くとつくづく思うのですが、地下鉄の乗り換えにどれほど歩くか、どれほど階段を上がったり下がったりするかということを考えますと、都市部の子ども・人ほど結構運動量が多いということになるのではないかと今はそう思っています。ですからもっともっとやっぱり農村地帯にある子どもたちは、もっとえらい目にあわさないといけない。学校に行くにも送り迎えするとか、これはやっぱりやめたほうがいいと思うのですが、そうなっているわけです。そんなことから、食育を3番目にもってきました。ですから、幸いこれはもちむぎで全国的にNHKの番組がありますから、もっともっともちむぎごはんを食べていただいて、メタボ率をさげればいいなというふうに思っているわけです。4番目に掲げましたのは、もちろん農村地帯ですから、農家の産物を活かそうと思ったのもそうでありますけれども、とくに2番めですね、まちの人ともに光をあてるということなのです。もっともっと私は活用したいと思っています。最近ものすごく感心しているのは、この間の山田文庫等を中心としたコンサートです。あれはやはり地産地消の見本みたいな感じかなと思っています。特に感心したのは、ダンスを踊られたお母さん方です。あれほど素晴らしいダンスをよく踊っておられたと思います。まったく地産地消だったと私はそう思っています。そういった意味で、もっともっと、ああいった方々に町内で活躍してもらおうということが大事だということから、この4つの目標を掲げたということです。ですから、この4つの目標というのは、福崎町で一番取り組まなければならない中心的な課題だと私は今も思っています。こんなふうにして取り組んだというのが実態です。ですから、教育委員会等でもこうした4つの柱をどうして前へ進めていくかということを含めて、しっかりとお互いに考えていただくことがよいまちになるのではないかとそう思っているわけです。そんなふうな観点から、いろいろと今日は話し合いができればと思っています。長い挨拶になりました。

3、議事録署名人の指名

本会の署名委員として嶋田町長から桑谷委員・藤本委員を指名しました。

4、協議・調整事項

- 意見交換
- その他

(事務局) 法律によりまして、総合教育会議で協議いただく事項が3項目定められておりまして、1つめは「大綱の策定に関する協議」、2つめは「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置についての協議」、そして3つめは「教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議」となっています。先般、町長からお伺いしました結果、本日は協議事項に具体的な項目を挙げていませんが、先ほどの「教育の振興」について幅広い角度から協議をいただけたらと思います。参考資料といたしまして、前回決定いたしました大綱、今年度の教育努力目標、新施設の利用状況等を配布させていただいております。それではこれからの進行につきましては、町長によりしくお願いいたします。

(嶋田町長) 別に大きな議題があるというわけではないのですが、いろいろみなさんが感じておられることをお互いに話し合い、出し合うということにさせていただければどうかと思っています。ですから、私があいさつした事柄についても触れていただい

たらいいのですが、福崎町は、私はこの4つが今一番取り組まなければならない課題だと思っています。それは、教育の面でも似たような感じではないのかという思いもありますので、それぞれの方で順番にお話しをいただければどうかと思います。では、各委員のほうから、教育委員会をやってみてこんな点をやってみたくらいかいろいろな思いがおありでしょうから、お話しを挙げていただければと思います。

(委員) 私が教育委員になって取組を広めていきたいと思ったのは、37、8年前からやっている青少年健全育成の取組をもうちょっと深く進めていけるかなという期待をしながらやってきているわけですが、その点について、10年ほど前に町長のほうからお話しをいただいて、それを申請して形にさせていただいたのが、今のキャンプ場のカヌー・カヤックの購入等によるカヌー教室です。あと、消防団長をしておりますときに、秋の町の文化祭で2日目は閑古鳥が鳴いていたので、エルデホールの芝生広場をなんとか活用したいと考えて形にしていたのが今の中播磨レクリエーション大会です。そういったところで、いろいろと私の活動を町のバックアップいただいて、段々と強めてきていただいているというのは、本当に実感をしているわけです。この中播磨レクリエーション大会についても、今年で10回目を迎えて、定着もしてきたというふうに思っているのですが、それで賑わいがでてきたからか、役場のほうがそれに今度のはのっかってきていただいて、食育というところでの取組をエルデホールの芝生広場で盛んにさせていただいておりますので、余計にまた活気も出てきています。そのおかげで、私どものレクリエーション大会がああから体育館にもっていかざるをえないという、それほど盛況になったという面もあるのですが、いろんなところで、いろんな形で、西播磨地域レクリエーション指導者協会、それから町内でのめだかの学校、そういったところと町との連携、そういったところでいろいろとお世話になって本当に感謝をしているところです。それと、ドームができたところから、南の方に子どもに気軽に遊びに来ていただける、上にツノっちーのついた公園遊具のところ、ああいったところもちよこちよこのぞきに行くのですが、毎回小さいお子さん連れのお母さんお父さんが楽しそうに遊んでおられます。それを見て、本当にうれしく思っています。それと、スケートボード場、だいたい私がのぞきにいったときには何人かの若い方がおられるのですが、残念なところはヘルメットをかぶっておられない方がやっぱり何人かおられます。そこへどういうふうに声かけをしていったらトラブルがなくいけるのか、ちょっと悩んでいるところではあります。最近のようすでは、私の方ではそういうことがありました。

(委員) 今日のこの会議でさきほど社会教育課長のおっしゃった、2番目の「緊急の課題がない」ということでしたが、これは非常にありがたいことです。一年そういう形であるということならば、よろこぶべきだと思います。それで、特に私が思いましたこと、それからこの12月で町長が退任されるということにあたって、私は非常に感謝申し上げることがあります。私は、高岡地区におりまして、非常に小さい村が集まったああい地域において、学校を新しく建設していただく、特に幼稚園を新しくしていただいて、地域のみなが集まれる場所を作っていただいた。ややもすると、統合・合併という話がでるのだろうかずっとやっぱり思っておりました。しかし、小学校の運動会やそうしたものにきていただきますと、幼稚園に保育園、お父さんにお母さん、消防団から青年団から老人会から、全部が集まって行事を行っています。まさにあの地域の町民が全部そこへ集まっているという、ああいふれあいの場は多分もうないのではないかと思います。子どもたちがお父さんを見て、親子の会話であったりとか、お父さんを尊敬するような場所というのはどこにあるのかなとか、「お父さん、一生懸命やっているな」「お母さん、こんなに頑張っているな」とか「おじいちゃんおばあちゃん、すごいな」というようなああい場所は、三世代通じてそうしたことができるという場所を残していただきました。4つの高岡・福崎・田原・八千種とい

うそうしたところにそういう教育の機会を均等にそして保全していただいた、とてもありがたいと思います。今後、それがどう展開していくかは後のお話しとして、現状こうした地域力というもの非常に減少している中で、その集約できる場所が残ったということは、非常にありがたいことです。感謝しつつしてもしきれません。特に、そういう意味でバランスのとれた教育行政というのをやっていただいたのではないかと思います。今後も是非そうした中で、こちらの学校はこうだけどこちらの学校はこうではない、ということがないような、できるだけ福崎町としての一つのまとまりを持って進んでいく、そうしたぶれないものをつくっていくべきなのかなと思います。教育は一長一短できるものでは当然ありませんし、この今まいた種が10年後20年後に多分実っていくのだらうという考え方をしないと、すぐ反映するというものではない、ややもすると一番最初に予算を削られるのが、こういう部分かもしれない。文化であったり教育であったりそういうものかもしれませんが、今一番欠けている「心豊かな人間を育てる」という、なかなか目に見えないものを指導なさっている教育長は非常に大変だろうと思います。明日明後日でも、一年後でも実るかどうかわからない、多分教育長がそろそろあちらの世にいかれるときにあのときのものが実った、という話になるのではなかとと思います。そういう意味で、子どもたちが大きくなったときに、福崎でよかった、福崎で育ててよかったということを今のうちに実感できて、体験できるものをずっと与え続けてやるのがとても大事なのかなと思います。今地域の人口の減少が言われていますけれど、入ってくる人を一生懸命募集するのも一つですけれども、逆に出て行かせないという努力も逆の意味で大事であろうと思います。子どもたちがここに住みたい、と思って福崎から出て行かない、そういう意味では多分地域における企業を誘致したりすることも必要ですけれども、逆にそれよりも福崎に住んで生活をしたいというふうに思わせることも発想の逆転として、どうしてもまず優先されるべきなのではないかと私は思っています。そうすると、若い世代が住んでくれれば、少なくとも子どもたちも増えるし、そうした活気ももう少し戻ってくるのではないかと思います。入れるということも大切ですがでていかせないという努力、それはやっぱり福崎の魅力を伝えることだと思いますし、子どもの間にそうしたものが中に植えつけられるということがあれば、きっとどこかに住みたいと思った時に福崎を選んでくれるのではないかといいなと思いつつ、それがあればいいなと思いつつ、それから、要望については、防災とか、特に田舎のほうに住んでいると、これ大丈夫かなと思うことが結構あります。都市部は結構人目に付くことがあろうかと思いますが、田舎を帰っている子どもたちを見ていますと、学童の見守りであったり立ち番等いろいろありますが、こうした車社会になってきたときに大丈夫かなと思うことがあります。できるだけ地域の人たちの協力も得てということなのでしょうが、子どもの登下校はもちろん、実は老人も結構歩いておられますが、あの方たちが倒れたらどうなるのでしょうか。もう一つは、みんなが携帯電話を持っている時代なのですが、携帯を持っていなければどうするのでしょうか。田舎には全然公衆電話すらありませんし、あちこち公衆電話はなくなっています。これはどうするのだろうか。そうすると、誰かがどこかで助けを求めたいとき、どうするのだろうか。非常に素朴なことを思います。福崎駅からうちのお寺に歩いて来る人があるのですが、「なにもないですよ」と言います。「いざというときのために携帯電話を持ってきてくださいよ」「自動販売機も途中2個しかありませんよ。飲む物を持ってきてくださいよ」というお話をします。いろいろなことを思うと「これでいいのかな」と思うことが少し気になります。外灯やらそうしたものの整備は是非お願いしたいと思います。それから今、柳田國男さんの河童であったり、いろんなことがイベントとしてできあがっています。決してそのイベントだけで上滑りしないようにずっとやってほしいと思います。一番大事なものは、当時誰も注目しなかった「民俗学」というものに力をあてて、それを発信した

ところを大事にしてほしいと思いますし、柳田國男さんのその理念であつたりその文書であつたり、考えを育てた文化であつたり、そうしたものがこの福崎なのだろうと思いますので、他の柳田國男さんに縁故のある町にはないもの、福崎にしかないものというのはまさにそこだろうと思います。柳田國男さんが情緒豊かにそうしたものに着目することができるようになった、いわゆる昔からの伝統であつたり文化であつたり、あの方に民俗学の重要性を知らしめた少年時代に培ったものがあるのは福崎にしかないわけですから、是非そこに着目してほしいですし、むしろそこに顕彰の光をあてる、そしてそうしたものを続けていくということが柳田國男さんの顕彰につながるのではないかと思います。そういう意味で、是非福崎町にしかないものをアピールするという一つの材料にしてほしいなと思います。

(委員) さきほどのお話しにあったように、八千種幼稚園もきれいに建設していただいて、地域の人々は本当に喜んでいます。今も玄関を入れれば、もとあつた大きな木をイスとして置いてくださっています。建物の後ろには、今までの卒業記念も大事においてくださっています。ああいうものを一つ一つ見てみますと、私が思うことは、子どもたちもまた大きくなってからも思うと思いますが、地域の先輩や歴史を敬い、こういうものが大事にされているんだと思うことも子どもの心を育てるものの一つかなと思っています。いろいろなことをその都度対応してくださっていること、やっぱり自分の家の子を送迎する中でいろいろ思います。一つは耐震の関係で旧と新の建物の間は壁がなかったんですが、台風等で雨が吹き込んで水が溜まるような状態だったのを、ある程度時期を経なければできなということも聞いておりましたので、ちゃんとその後、対応して壁をつくっていただいて、本当に子どもたちが寒さや雨を防げるようにしてくださっている、私がこういう教育委員という立場・役割をいただいて、いろんなところで、教育委員会として町として「してくださっている」ということを切実に感じるがあります。送迎バスを子どもたちができるだけ利用したらいいのではないかという声も聞いたような気がしますが、私自身、家の子を送迎する中であいさつを交わす、それをみて子どももマネしてあいさつをする、大人同士のつながり、全然知らなかった人とあいさつを交わすとなんとなくこういう方がいらっしゃるのだなと顔見知りになることがあります。また、送り迎えは大変と思われる方も多いと思いますが、大人同士のつながりもすごくできる、あいさつを交わす良さがあるなど、最近特に思っています。そういう意味では、人間関係が希薄になっているいろいろなところで感じますが、こういうことが大事だなと思っています。それと、学校をそれぞれまわらせていただいて、それぞれの学校の伝統を先生方がしっかり受け継いで、良いものを引き継いでいこうと思われているのが、私は福崎町でも長く勤めていましたが、自分が勤めていなかった学校の子どもたちの姿、ずっとつながっているものを見せていただいて、先生方の努力もそうですが、こどもたちがいろいろなことや心も受け継いでいっていることを実感させてもらいました。自分が教職についていたこともあるのですが、今まで自分が現場にいるときには感じなかったこと、わからなかったことを毎回教育委員会で子どもたちの学習のようすであつたり、事故であつたり問題行動であつたり、詳しく説明してください。そして、その都度、「こういうことに対しては学力支援をしています」「すぐにサポートの先生を入れていきます」というふうに、いろいろな先生を入れてすぐ対応されています。予算もいることなのですが、子どもを第一に考えて、いろいろな先生方やカウンセラーを入れておられます。いろいろな大きな事故のとき、田原の子どもがかわいそうに火事で亡くなられたときも、スクールカウンセラーをすぐに入れたり、いろいろなところでお金のかかるところにも子ども第一に考えておられることがよく感じられました。自分が外から見せていただいて、子どもたちに人としての力、学びであつたり習慣であつたりを身に付けさせていく、育てていくという教育の素晴らしさを改めて感じます。自分が離

れてみて改めて、子どもを育てる「教育」をできる先生の素晴らしさ、素晴らしい仕事というのをすごくいいなと思います。先生方にも一人ひとりに寄り添って、子どもに力をつける、そういう先生になってほしいとすごく思います。自分は何にもできないけれども、教育委員会でこうしてお話しさせていただいて、学力テスト等の話についても「こういうふうに工夫しています」と教育長さんがいろいろと努力されている中で、自分も、「こういうことがいいですね」とほんの少しでも意見を聞いていただける立場にいるということで、学校でもそうですが、日常の中でも子どもの姿を自分もよくまた違った目でみる自分になったと思っています。直接自分の経験をいかすことはなかなかないのですが、一つ挙げるとしたら、「柳田國男ふるさと賞」というのが毎年行われていますが、1回目始められた時に一緒に審査にかかわらせていただいて、改めて毎回参加するごとに、先生の関わり方で子どもの作品がすごく違うのも実感しましたし、やっぱり「子どもって素晴らしいな」と思います。ふるさと賞を設けられたことで、子どもが地域のことを発掘してきます。「あれを調べよう」「これを調べよう」と、ふるさと賞があることで子どもが身近なことで「あれは何なんだろう」と今まで何気なく見過ごしていたことを調べてみようという力をつける一つにすごくなっていることを、3回参加させていただいて、子どもたちが1回目より2回目、3回目と、毎年あると何をしようかと迷う子もいると思っていたのですが、毎年違うものを子どもの目で探しています。自分の地域の行事であったり、地域の神社で絵馬を観て調べたり、大きな素晴らしいものにつながるかはわかりませんが、でも、地元を愛するとか、こんなものがあつたのか、こんな歴史があつたのかと調べる力を育てる、すごくいい機会を子どもたちに与えていると思います。そういうちょっとしたことしか、私は役割をいただいても自分としてもできていないなと思っているのですが、改めて子どもはすごくいいものを持っていると再認識したり、福崎ならではのものを、教育長始め教育委員のみなさん、また現場の先生みなさん一緒に、子どもたちに何とかいろんな力をつけていこうというのは町長さんが始まりだとお聞きしています。柳田國男のことを現場でもっと力をだせるものはないかというあたりからふるさと賞が生まれたと聞いていますので、こういうものをこれからも大事にしていだけたらと思います。

(委員) 去年10月からこの役割をいただいたのですが、学校教育にしても社会教育にしても、全く分からない、知らないところからのスタートでした。今年1年は知るところから始まったといえますか、例えばどこの小学校にも障がいをもった子どもがいるということを恥ずかしい話ですが初めて知りました。その他、いろいろな家庭の問題を抱えた子どもたちが問題を起こしたとか、いろんな方々に迷惑かけたとか、身近に感じる事が地区でありましたので、実際は今までだと「そんなことがあるんだ」と人任せというか他人事だったのですが、このお役目をいただいたことで、その立場に自分がいたらどうするだろうとか、誰か相談する人がほしいなとか、自分の子どもがもしそうだったら親としてどうするだろうとか、そういう他人事ではなく、自分のこととして考えさせていただける機会を持たせたことが、私にとっては考え方としては幅広い考え方を持たせていただくことができたと思っています。それと、民生委員さんとこの度そのことによってお話しさせていただくことができて、民生委員さんがどのようなことを考えたり思ったり行動されているのかを知りました。そのお話しの中で、自分は教育委員として何ができるのだろうかとか、どのようになにをすべきなのだろうかとか、とかいろいろ考える機会を持たせていただきました。そういういろんなことを今後何かの役に立てることができればいいなと思っています。それと、先ほど町長さんから言っていただきました住民企画のコンサートの件なのですが、住民企画という機会を与えていただけたおかげで、こういうコンサートができたかなと思うのですが、私は音楽しかやっていませんでしたので、音楽をとおして、子どもか

らお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、ひいおじいちゃんひいおばあちゃんまで、それこそ4世代にわたって楽しめるようなことが、遠くに行かなくても地元
の立派なエルデホールで、しかも安くで楽しめたらいいなと思って、この企画を考え
ました。子どもたちとプロの演奏家たちとのかかわりによって、子どもたちがどんな
ふうなことを思ってくれるかな、感じてくれるかな、何かその中で気づいてくれるも
のがあったらいいなと思いましたが、そのときは、まだ子どもとプロの演奏家との共
演でした。その子どもたちをみて、お母さん方が「自分たちもやりたい」と自分たち
からおっしゃってくださって、子どもたちを指導してくれているすごい人が一人おら
れるので、その人を中心にお母さんたちも何かできたらいいと思い、お母さん方の参
加もお願いできませんかと提案をいただくと「それはすばらしいですね」と急きょお
母さんたちも参加ということになりました。プロの方々もなかなか忙しく、こちらの
ほうに指導にきてもらうことも難しかったのですが、3回くらい子どもたちの指導に
あたっていただきました。でも、指導といってもちょこちょこっと目先を指導するだ
けではものにはならなので、やっぱり一番大事なのは基礎になることなので、プロの
人たちは一生懸命その基礎、例えば手を動かしたときにぴしっと止めるとか、上から
何かにつるされているような気持ちで歩くとか、下を見ないとか、そういう基本的な
ことを何度も何度もおっしゃっていました。その結果、子どもたちが最初にやってい
たことと、ああやって大きな晴れ舞台で演じたものをみていますと、やっぱりものす
ごく成長しているなど感じました。そのことが子どもたちにとって、なにかいいもの
をもらってくれていたらいいいなと思っています。それを観にきてくださった方々も、
山田文庫の子どもたちが出演する回数はおそらく年間通してすごく多いと思うので
すが、あんな場所で、お客さんが満席の状態プロと一緒に出演するというのはおそ
らく初めての経験だったと思うのです。お客様も今までだとなんとなく見ていたのが、
そういう目で見てくださいったと思うのですが、「わあ、こんな素晴らしい子どもたち
が福崎町にいるのですね」という声を何人かのお母さまから聞きました。プロはプロ
としてそういう目でみなさん見ると思うのですが、子どもたちがあんなに立派にやっ
ている姿に感激してくださったようで、感動・感激することが少なくなっている時代
だと思うので、そういう感動・感激を味わっていただけたのもうれしかったです。い
ろんな点で気づいたこともありますので、それは私が音楽をやっていてよかったのか
なと思うのですが、そういう細かな点を今後いろいろな方と話し合いをしたりしなが
ら、より発展的なものにできたらいいなと思うので、いい勉強をさせたいだと思
いますので、これを今後お返しさせていただけたらいいなと思います。

(高寄教育長) 私は、福崎町の人たちが、福崎に生まれてよかった、福崎で学んでよか
った、福崎で育ってよかった、福崎に住んでよかった、とこういう思いを持っていた
だく、その基盤を教育委員会として築き上げていく必要があるという思いでいつも
います。もちろん、町長を中心とした町の行政がありますが、教育の分野からもこれ
を側面から支えていく必要があると、そういうまちづくりを教育の分野からしたい
と思っています。教育委員会の長期目標も、当初は「大地に根を張り、大きく・・・」
と私は教育長をスタートさせていただいたのですが、木が大木になるには、根がしっ
かり張っていないと大木になれない、少しばかりの風が吹いたり雨が降ったりして倒
れるようなことであれば、大木にはなれないから、まず基盤は福崎町にしっかりと根
を張る子どもを育てることだと、こういう思いで最初のうちは取り組んできまして、
そして今年は、かなり根も張れたので、幹を太らせたいと、そのためにいろいろな新
しい教育施策を新しく取り入れてきました。これも先日教育委員会でお話しさせてい
ただいたのですが、幹が太れば次は枝だと、枝をどんどん伸ばす、はらさせる、そし
てその次にはその枝からきれいな花がいっぱい咲く、花が咲いた後には必ず実がなる。
これが福崎町に生まれて、育って、住んで、そして最終的に大地へかえっていく、そ

それは実を实らせてその種をまた大地に落としてということを繰り返していくということが大事なのかなと思っています。私が実をならすところまで教育長をしてはいけないと思いますが、後継の方がそこはしてくださると思いますので、私は花を咲かせる、その前の段階まではやっていきたいと思っています。そして、福崎の子どもも住んでいる人たちにも花を咲かせてもらって、実をならしてもらって、そして種を残していてももらいたいという気しております。そういう意味で私がうれしかったのが、教育委員会の教育委員のメンバーの方々が教育長を支援していただいた、支えていただいた、アドバイスをいただいた、そういうふうに教育長と教育委員の方々がチームワークよく、福崎町の教育に関して考え、取り組んでこられたことに喜びを感じています。3点目、これは町長にごまをするわけではないのですが、嶋田町長という方は深い発想を持っておられる方だなあと今年再認識させていただきました。それは明治5年の学制が日本で敷かれて以来、日本の教育は三育、知育・徳育・体育であったのです。それを福崎町は全国で初めてとっていいと思いますが、四育、すなわち食育をくわえて四育で福崎町の教育を進めていこうと取り組んでいるところです。その四育の考え方が町長のまちづくりのこの図にきちんと入っています。そう捉えてくださっているというわけです。たとえば、1番目は知育の知がきちんと入っています。2番目のもてなしの心は徳の部分、4の部分の部分が体の部分、そして3は食の部分です。福崎町は知育・徳育・体育の三育をその底辺から支える食育を加えて四育であると。こういう四育の考え方が町長の4つの絵にはきちんとうめこまれている、と。さすが町長、深い発想だなと私は今年は感心させてもらっています。

(嶋田町長) ありがとうございます。それぞれ皆様方から全般的なことから出させていただきました。私、町長側から言いますと、教育委員さんの場合、こんなことは本当はないのかもしれませんがご遠慮なさっているのではという思いがあります。教育委員会は町長側とはしっかり独立されておりますから、かなり無理難題でも教育委員会で検討されたことは町長部局へぶつけるという言葉が悪いですが、持ち出していたくというそういう姿が結局は町をよくするということにつながると思うのです。教育委員さんの側で現状をみて「こんな無理なことを言ったら申し訳ない」という思いをもし持つておられたら、それは早く払拭して、実現できそうもないようなことでもやはりぶつけてみると。しかしそれはお金がありますから、みんながみんなできません。とても企画財政はいわないと思いますが、しかしやっぱりそういう要望とか要求とか、教育委員会側の声を実際にできませんと、やはり町長部局のほうも考えようかということにはならないものです。そういった意味から、遠慮せずに今の学校教育で、ハード面の方で先に検討したらいいと思うのですけれども、いまハード面で充実させるべきものを教育委員さんお一人ひとりでどのように考えておられるのかということをお聞かせください。例えば時代とともにものすごく変化して、実際は弱っているというよりも「ああ、時代の変化か」と思うのは、例えば便器一つにしてもこの間まではそんなに洋式の便所ということはありませんでした。ところが最近、ご家庭が特に公共下水道が普及して、各家庭で水回りのところが改造され、かなり洋式が普及したという生活の変化から、学校側も洋式にしてほしい、社会教育施設も洋式にしてほしいという要望があるように、いろんな施設についての要求がでできます。ある意味では先取りしてやらないと、つくってから持つてこられてもかなわないという思いがあります。いまどんどん洋式に替えてはいますが、もうちょっとつくるときにちゃんとしておけば、今またお金をかけてやる必要もなかったという思いなのです。そういう意味で、若干先を見越したハード面での要求というふうなこともあるわけなのです。そういった意味で提案していただければ、私も次の後任者にそんな声がありましたと教育委員会からだしていただくこともありますので、大きなハードも必要ですが、小さな施設面もひっくるめて、改善しておいてほしいというところがあれ

ば教えていただければありがたいです。

(委員) 数点あります。まず1つ目は、トイレの話がでましたが、すでに20歳くらいの学生、私どもは大学の方で出会いますけれども、逆の面があります。洋式でしかできないということです。男の子が教員トイレに来ます。何をやっているかという、トイレに座ってでないと小ができない。要は家でトイレに入るときに、立ってすると横に散るから座ってやりなさいということをお母さんから学んでいるということです。逆の意味で適応力がなくなっていく。教育というのが「生きていく力を養成するということ」であるならば、両方ないと実は困るということ、極端に走らないということをやっておかないといけないと思います。震災のときなどに洋式トイレでしかできないということになったら困ります。できるだけ古い伝統というわけではないですが、そうしたものもないと外に出て行ったときに対応できないということになればそれも困りますので、洋式と和式はある程度均衡をもった進め方をしなければならないということが一つです。もう一つは、私の子どもでももうパソコンから何かなんでも触るのです。小学校のときから「こういうことをしてはダメ」ということを教えこんでおかないとなんでもやります。父親や母親の携帯電話を幼稚園や保育園のときから借りて勝手にゲームをしていますので、中学校でスマートフォンや携帯電話のいろんなルールを策定しているようですが、具体的なことは別にしても、もう少し小学生でもある程度のことは教えてやる必要が出てきている時代になっているのではないかと思います。それからもう一つ、神河中学校でしたが、全部新しい学校ができあがりました。全室空調がついていると。なかなかこれは大変なことで、地球温暖化のときにこれは大変だと逆にそう思いました。このスタートボタンを押す人は大変だなと。いまから永久に子どもたちが冷暖房をつかうというスタートを押す瞬間なんだと私は思っています。確かにこれほど異常気象で温度が高くなって、倒れる子どもでてるかもしれないので、そういう意味ではどうしてもということもあると思いますが、できるだけ自然の環境の中で生きる人間ができていないと、ひ弱な人間ができてしまって、それこそ知育・徳育・体育どころではなくなってしまう、体育の素地がない子どもが育ってしまう可能性があります。なかには「教室などエアコンをつけたほうがいい。なんとかしろ」という親御さんの意見もありますけれども、できるだけそうした「全室冷房暖房」ということではないような教育であってほしいなと私は思います。教室に扇風機を寄贈していただいたことがかつてありました。是非そういうことを募集していただき、1台といわず2台3台おいてしのいでいく形にしてほしいと敢えて思います。

(委員) トイレについては普段いままでの教育委員会でもこのように洋式に替えていきますという報告は何度も聞いています。ただ、和式ではできない子もいると聞いておりましたので、私も日本はどこへ行ってもすべて洋式というわけではありませんし、広い意味で何にでも対応できる、これでしかできないということでもいいのか、大きな意味で「生きる」ってそうではないでしょうかという、やはり何にでも対応できるということが大切です。外国へいったときにその場その場でこれでないと、そのときはできるのですが、最低日本では日本の伝統の和式でもちゃんとできるという、それは親の役目でもあると思いますが、きちんとそういうものが学校に両方残っているのが私はいいかなと思います。ただ、洋式を増やしていつていきますというのはそれはそれでいいことだと思います。和式でもできる子を育てる、和式も大事にするということでもいいと思います。冷暖房については、空調があったほうがいかなと思っていましたが、さきほどのお話を聞いて、「ううん、そうか」と思っています。確かにライオンズクラブから扇風機をいただいて大喜びしたことを覚えています。ただ、一部の子にしか風は届かないけれど、子どもと一緒に大喜びしたことを覚えています。空調は例えばコンピュータ室とか決められたところいくつかにはあるのですが、例

えば学年単位で集まるようなところは限られているので、実際使いたいけれど、他が使っているので使えないときは暑いところで我慢することも大事なのですが、あの暑さの中で大勢の子どもたちが話を聞く場や勉強したりする時間もあるので、学年全体で集まるような集合場所のような場が各学校にはいくつかあると思うので、そういうところには一つでも増やしていただければと思います。それと、ハードではないのですが、自分が教育委員という役をいただいたことや孫の送迎をする中で見たことなのですが、地域のボランティアとの関係をうまくいかしておられると思います。例えば、他の学校もそうだと思うのですが、八千種は1年生の子どもたちが他の学年と帰るまで、八千種県民交流広場で宿題したり遊んだりするのをボランティアの方が毎週子どもたちをみてくださっています。それから、休み時間の本の貸し出しの時間にボランティア募集があつて行かれています方があります。いい意味で地域の協力があり、また協力してくださる方がいるのは非常にいいことだと思っています。自分のことだけをみると、何もかも自分たちでやらないといけな、それが当たり前みたいな状況でしたが、どんなに忙しくても図書室の係になれば休み時間に貸出しをし、後片付けをし、放課後も最後まで子どもたち教室で預かっており、すべてできるのですが、「忙しいなあ」と思いながら必死でやっていたようなことを思います。そういう意味からいうと、非常に地域の方の協力があつて、ありがたいなという思いでいます。それとあわせて、学校司書というのは、多分姫路市でも、司書の先生が専門でおられる小学校はほとんどないと思うのですが、学校司書の資格をもった教員が、図書の担当になって、私も何かの役に立つかと免許をとったとたん、整理から何からコンピュータ化したときに先生方の協力を得ながら全部行った記憶があります。いまは予算的な面からも1人の方を雇うということは難しいと思うので、多分司書免許をもっている教員が全部図書館教育に携わり、図書の貸し出し等もされている状態だと思いますが、できたら例えば町に1人でもそういう方がいらっしゃって、順番に学校を回って図書館教育をしてくださればと思います。確かに、福崎にはすばらしい図書館があるので、連携すればいいのかなとも思うのですが、やっぱり学校の図書館を学習にいかしていく環境づくりというか、そういうことも専門的なことですし、結局先生に余裕がないので、環境であったり、子どもたちと一緒に委員会を通じて行うのですが、専門的に行ってくださる方があれば、子どもたちの学習に生きる配列をしてくださったり、希望としてはそういう方が一人でもいてくださったら、順番に回ってくださって指導して下さる、また図書自体も学習が生きる場に変えていってもらえるという指導、実際動いていただける方があればなあと思いました。

(委員) ハード面ということになりますと、田原の県民交流広場を数回つかわせていただいたのですが、もちろん予算の関係だと思うのですが、机をおいてイスを置くと20人入るともう身動きがとれなくなってしまいます。いいことが広がるとさらに人数がひろがるので、とても間に合わなくなってしまいますので、先ほど町長さんがおっしゃったように、5年後10年後を見据えて大きくつくってくださっていただければ、いろんな活動ができるかなと思いました。それと、これはハード面ではありませんが、いろいろな地区に公民館がありますが、その公民館をもっとフルに活用できたらいいと思います。今、委員がおっしゃったように、何かを指導する人がいれば、例えば裁縫の先生がいれば、裁縫の好きな人たちが集まってきて、月曜日は裁縫の会、火曜日はお歌の会、水曜日は絵を描きましょうというような、指導者を育てるような生涯学習を立ち上げていただけるといいと思います。私は今回エルデに携わらせていただいたから思ったのですが、業者が入っていますよね。もちろん金額が高くなりますが、それを例えば音響の好きな住民がいたら、その技術をさらに高めるような研修を行ったら、その人たちはボランティアに近い形で業者がやっていることをやってくださる。生涯学習としてやるので、自分たちも勉強する意欲を持って取り組める、それがまた

みなさんの役に立てるということで、二重の喜びを味わえるのではないかと思います。そんな人たちがいろいろな分野で活躍できたらと思います。これから元気な老人が増えてきますので何か自分たちで遊ぶことも考えながら、遊ぶ場所も必要ですし、でも遊ぶだけでなく何か希望をもってやれたらそんな素晴らしいことはないと思います。是非そういう研修をやっていただければうれしかなと思います。

(委員) 社会教育施設のハード面に対する要望なのですが、まず、七種のキャンプ場の山小屋は、冬場の利用がほとんどありません。あそこの利用・活用という意味では、中に大きな暖房がほしいという話はいつもしています。一応、その解消ということで、こたつは入れていただきましたが、こたつだけではまだまだ寒いので、全体が暖かくなったと思います。それと、使う方からすると、役場の行政の縦割りが弊害になっているのですが、春日山のキャンプ場のコテージがもっと活用できないかと思うのです。あのコテージがグループで使うにはちょうどいい大きさなのですが、冬場でもエアコンが完備されていればもっと活用は増えてくるのではないかと思います。夏場でも最近春日山キャンプ場はあまり利用されているようには聞いていないので、もし利用されておれば私たちにも声がかかってくるのではないかと思います。使う住民側からすれば、同じキャンプ場とみられますので、社会教育施設とそうでない施設という住み分けは住民からは全然歓迎されていないので、両方がうまく活用できるような体制をとっていただけたらと思います。

—— 休 憩 —— (1 4 : 5 0 ~ 1 5 : 0 0)

(嶋田町長) 今度は福崎町の教育水準を高めるためにソフト面でこんなことをやったらどうかというご意見を、学校教育、社会教育どちらもよろしいのでお聞かせください。いま教育委員会はいろいろ考えて工夫してやっていますが、さらに上乘せできるようなことを思っておられたら、出しておいていただければと思います。

(委員) 思い浮かばないのですが、子どもたちの教育水準をあげるためのソフトというと、基本は私は学校の中での日々の積み上げだと思っています。学力テストについても町長は言われましたが、一時期力をいれたから伸びるというものでもありません。常々思っているのは、一人の先生が一生懸命してもダメです。学校全体として6年間のスパンで、こういう力をつけたいから積み上げていくという先生方の意識が、今日の前の子どもに一生懸命することも大事ですが、学校全体の力をつけるためにそれぞれの学年でここまで、ここまでというように高めていかないと、全体の先生の意識の統一がなければ、全体の子どもの力はなかなか上がっていかない。その1年よくても、次の年、学年で違うことに力を入れるとそれが崩れてしまいがちなので、学校の子どもたちの教育の基盤が何かということを、しっかりされているけれども、毎年、やっぱり確認して、これに力を入れていくんだと確認することが大切だと思います。私としては、ずっと思ってきたことは、小学校のいろんな教育の基盤は国語だと思ってきました。国語ができなければ、他教科の本も読めない。読み取れない。国語教育はすべての教育の基本だと自分では思ってやってきました。読める・書けるという基本がなければ、あの学力テストの学力を問われる前に問題を読みこなせない子がいると思います。そういうものを読み込めるようにするには、読書であったり文章を書いたり、普段の中の積み上げがないとなかなかその力を発揮していくことができないので、学力テストだけではなく、やっぱり国語力をしっかりつける基本があることが昔から「読み・書き・そろばん」といいますし、一番力をいれないといけなところ。基本・土台をつくっておかないと、いろいろな教科においてなかなか知識を深めていくことが難しいなと思っています。やっぱり一人ひとは頑張っているけれども、共通意識をもって先生方が学校として子どもたちをこう育てるんだ、6年間でこんな力

をつけるのだというその意識があるかないかで、今年の子はよかった、来年の子はこうだとそのときそのときで終わってしまうので、継続した基本学習とか、継続した朝学習をする等してはどうかと思います。朝の学習で、国語をしたり算数したり、それぞれあの短い時間にしていると思いますが、有効に活用するためには、徹底的にこの曜日は計算力というように学年を通じて学校として取り組むことは有効だと思うので、学年が変わると違うことをしている学校もあるので、この曜日は絶対読書なら読書というようにしてはどうかと思います。私が勤めていたときは、ある曜日はどの教室も静かに本を読んでいるということがありました。そういう朝学習についても、学校として統一し、継続することで力がつくとずっと思ってきましたので、取り立ててソフト事業でということはありませんが、いつも教育長から先生方が非常に努力されているとお聞きしていますが、自分がそういう立場ではなくなったので改めて基本を大事にしていくこと、学校として力をつけていくためには何かと先生方の意識を高めていただきたいと思います。

(委員) 先ほども申し上げたのですが、どんどん高齢者が増えてきます。高齢者は自分たちの手で楽しく元気に暮らしていきたいと思うのです。それが医療費の節減につながると思います。福崎町には「まちの先生」という制度がありますが、それが今あまり活用されていないように思います。そのまちの先生の研修をして、そのレベルをあげて、自信をもっていろいろなところに指導に行っていくことが公民館の活用につながると思うのですが、その公民館活動をしていくと、そこにまちの先生が来てくださる、それをお世話してくださる方がいる、後片付けをしてくださる方とか、自分のできることをそこでしてくださる、ということになると思います。それをいろいろな地区で行っていくと、福崎町はいつも元気でここにこして明るいお年寄りが多いまちになると思います。そういう研修をやっていただければうれしいと思います。

(高寄教育長) 例えばコップにお茶が入っていてそれを飲むわけなのですが、飲んだお茶をみて「もうこれだけしか残っていない」と思うのか「いやいや、まだこれだけも残っている」と思うのか、もの見方・考え方によって同じ一つのことでも違ってくると思います。いつも言っていることなのですが、教育という分野においては「命に勝る宝なし」です。これは、こども園の子どもから老人大学の高齢者の方まで含めて、命というものを一番大切にさせていただいて、この世に生きてきた喜びを感じていただいて、子孫にバトンタッチして行ってほしいなと思います。もう一つ、私はこれは先生方にもよく言うのですが、今の時代一番ほしいものは「感謝」というこの二文字がほしいということです。これも先生方にいうのですが、「ないものねだりはするな」「置かれた場所で咲け」「適材適所を活かそうとするのではなく、適材適所をつくれ」と校長会等をお願いしています。確かに今の時代、不平不満やないものねだり、ああしてほしい、こうしてほしいという要望や要求はたくさんあります。たしかにそうしてあげたい、そういう気持ちに添いたいと思いますが、やはり現状にはいろいろな条件があり、そうした思いに添えないことがたくさんあります。そこで、いま現状に不平をもつか不満をもつか、いや感謝の気持ちで今を過ごすかによってずいぶん違ってくると思うのです。これもよく言うのですが、お母さん方が子どもが通知簿をもらってきたとき、ぱっと開いたときにどう感じるかということです。よく頑張ったと思うかダメだと思うかは、お母さんのスタートがオール5からスタートするかオール1からスタートするかでずいぶん違うのですよということです。オール5からスタートするから、4が一つあっても「もう一つぐらい頑張って5がとれなかったのか」という気持ちになりますので、子どもは頑張ったという気持ちをほめてもらえず、だんだんやる気をなくしていくわけです。逆にオール1からスタートすれば「この子はみんなダメだと思っていたのに、2が一つあるじゃないか。よくがんばっているじゃないか」ということになり、それが3になり4になると、子どもに対する喜びが違ってきて、

当然かける言葉が違ってくるので、親としても子どもも達成感・成就感というものがどんどん認められて、自分自身の意欲を高めていくというか、自尊心をもつというふうに子ども・人間が育っていくと思うのです。私はいつも物事を考えるときは100点からスタートするのではなく、1点からスタートするようにすれば、不平不満があっても、ここが足りない、ここをこうしてほしいと思うことがあっても1点よりはましということになります。40点という点数が高いか低い、ということも、100点からみれば低いですが、0点からみれば40点は非常に高いです。そういうものの見方もあるということです。私たちは教育の分野をソフト・ハードも含めて至らないところ、欠けているところ、そこは補っていかねばいけないと思いますが、すべてがすべて補えるわけではなく、もっともっと欲しいけれども、この状態で頑張ろうという考え方も大事ではないかと思えます。そう思いつつ、来年町長にお願いしたのは、トイレの洋式化は中学校が少し残っています。次は先生方のトイレの洋式化も進めてあげてほしいという気持ちももっていますので、私たちは予算要望にはそのようにあげていきたいと思えますので、それを認めてくださるかどうかは財政当局の思いもあるでしょうが、そういう思いでいます。

(委員) 教育水準を高めるためのソフト事業というのがでてこないのですが、学校でパソコンは全学校に整備されていますが、そのパソコンの教室に行くだけではなく、自分の教室でもできるようなタブレットが2・3クラス分ずつでも配備ができれば、次の有効活用ができるのではないかと思います。全校生徒に配るのは難しいと思えますので、学年に2クラスずつくらいでも配備できれば、とりあえず今の子はスマホ世代ですからタブレットは簡単に使えると思えます。これからの教育に必要なではないかと思えます。

(委員) 社会では生活水準が教育水準と連動しているといわれたりしていますが、公教育の場では誰もが平等で、同じ教育を受けられるということは日本国憲法の目指すところでしょうから、まずそうした中で誰もが同じ条件で同じように勉強できるということを考えて、今の学校の制度の中でどうしようかということ、多分学校の先生方は、塾に行かなくても十分にできるようにやっただきっていると思えます。そういうところを徹底してやっていただくことが多分一番なのかなという気がします。やはり、私も思うのは「読む」ということが大事だろうと思えます。「読み・書き・そろばん」と昔から言ったように、その順番も一番最初に「読む」がありますように、名文を読む、それに親しむ、必ずそこから全部がスタートするのだと思えます。英語を小学生でやるのはどうかと未だに思っていますが、最終的にもししゃべれても、しゃべる内容は日本の文化であったり考えなのです。そうすると、きちんとそういうものを持ちうる、「三つ子の魂百まで」といいますが、小さいときに読書の習慣を徹底するような教育を小さな間にしてやるということが大切かと思えます。そういう意味で、保育所幼稚園で「先生のいうことを聞くんだよ」「目上の人にならば挨拶するんだよ」という、もちろんそういう一番のところは3歳までにしてあげなければなりません。そういうところを福崎町を挙げて教育に取り組むという姿勢がいるのではないのでしょうか。特に、上級生になって、知育・徳育・体育・食育が掲げられる前段階として、保育園幼稚園の子どもたちにそうしたものに対応できる、基本的な世間でいう常識の一番最初、「友だちとは仲良くする」「先生の言うことはきちんと聞く」ということを反復させて教育していくという、幼児教育に特に力を入れるということは必要かと思えます。そして、上級生になれば朝読書、反復練習というものを是非徹底してほしいと思えます。びっくりしたのは、いまの小学生の子どもたちは日本昔話を知らないのです。浦島太郎やかちかち山等は知っていると思うのですが、そこから少し離れるともう知りません。困ったなと思いました。これで日本の文化の継承はできるのかと思えますが、そうならば本当に簡単なものでいいので、小学校には常備して、順番に

小学校の間に読ませるということをやってもいいのではないかと思います。学校には世界名作全集や日本名作全集のようなものがあるのですが、そんな高価なものではなくていいので、本当に簡単な薄い「日本昔ばなし」というような冊子でいいので、そんな簡単なものが今いる時代になってしまったのかなと思います。

(嶋田町長) 今、基礎学力、特に「読み」のことが強調されましたが、これを福崎町全体として向上させるために、どの学校も取り組もうというものさしはあるのでしょうか。これを高めるために必ず福崎町ではこれをやろう、というものは、幼児教育や学校教育の中に共通してあるのでしょうか。

(高寄教育長) 福崎町だけではありませんが、全国的には「朝読(あさどく)」というのをやっています。1時間目の授業が始まるまでに10分程度ですが、クラスのみんなが自分の席に座って、自分たちで思い思いの本を読むことで、そのことによって落ち着いた精神状態で1時間目の授業に取り組めるということで、町内どの学校でもほぼ毎日のように朝読をやっています。そして、もう一つすすめているのが今は「家読(うちどく)」です。同じ本をお父さんお母さんにも読んでもらうことで、読んだ本の中身のことについて食事の時でも家族のコミュニケーションがはかられて、「こういうところがあったけどどう思う?」とか「私はこう思うけれども、お母さんはどう思う?」とを話し合うことができます。そういう家読のすすめが毎月の「フクちゃん読書の日」です。毎月29日に「フクちゃん読書の日」ですよ、と前日に放送してもらっています。家族を挙げて、町を挙げて読書に親しむという、そういう取組をやっています。あと、ノーテレビデーもやっています。

(嶋田町長) そういうことが今回の学力テストの結果につながったのかもしれませんが。子どもを通して家庭を教育する、という動きです。非常に素晴らしい内容であったと思います。ただ、これはさきほどの委員の言葉だったでしょうか、気になっている言葉があります。それは「先生の余裕」という言葉です。このへんはどうなのでしょう、先生には余裕がなくなってしまって、なかなか教育全体を考えようという余裕がないのであれば、そこは軽減する必要があると思いますが、皆様方の思いはあるのでしょうか。思われた方から発言されたいと思います。いかがですか。

(委員) 組織上いろいろ会議は多いと思います。特に学年の責任者になると、いろいろな会議があります。私が思うのは、一番上の者が常に出席することも大事ですが、次の人を育てるという意味では、なにもかも一番上の人が行くのではなく、2番目の人を育てるということをしておかないと、人事の入れ替わりで新たな学年になったときに非常に困る方もあります。全てなにもかも学年代表といえれば一番上の人が行くのではないという仕組みを作ることで、学年間の意思伝達もできるし、結局それぞれが分担することで偏った方に常に仕事が集まるということはなくなるかもしれません。組織上一人の方に集まるというほうが仕事に深まりがあっているのですが、余裕ということでは、次の人を育てるという意味で、そういうことも考えて組織していけばいいと思います。

(嶋田町長) 本当は町が費用をだしてどんどん先生を採用すればいいのですが、なかなかそれも今は難しいのです。ですから、今の組織の中でお互い創意工夫をして、時間を創り出すということをやらないとだめです。

(委員) 小学校や中学校の横を通っても遅くまでやっぱ電気が点いています。先生方、ご苦労をなさっているのだらうなという気がします。多分、書類を書くよりも子どもたちと触れ合っている教育の方が心が通っているのだらうなと思います。私も現場にいますが、どうしても書類が多いです。できるだけ簡潔になったらいいのになと思いますが、なかなか公の場ではみんながそうした手順を踏みながらあがってくるものなので、どうしても必要なのだと思いますが、なんとかならないかとは思いますが、そのあたりが簡略化できるとか、そういう申し合わせをすれば、もしかすると少しは簡

略化できるかもしれません。

(委員) 時間の簡略について、福崎町はそうではないと思いますが、職員朝礼をすべてコンピュータに入力して、時間短縮を図るために姫路市はそれですませる学校があると聞きました。驚きました。きちんと口頭で伝える意味の大切さ、共通理解の大切さで朝は連絡をするのですが、それを聞いて驚きました。そんなことでいいのでしょうか。先生同士のコミュニケーションもないし、いくら時間短縮のためとはいえそんなことでいいのかと驚きました。しかし、それが行われているということを知って驚きました。

(委員) それは本末転倒です。何をかいわんやという気がします。

(委員) しかし、それをやっている学校はそれがいいと思っているのでしょうかね。

(嶋田町長) 2番目に「あいさつを交わし」とありますが、「あいさつ」となっていますが、人と人の会話をしましようという意味を込めています。教育はまして特に機械が相手ではないので、さきほどおっしゃられたようなことはどうかと思います。

(委員) あいさつの話について、私は朝、田口まで走るのですが、そのときに出会う中学生は「おはよう」というときちんと「おはよう」とかえってきます。自転車でクラブに向かう子どもたちです。7時前です。その足で東中の方に走ると、出会う子どもたちは「おはよう」と言ってもかえってきません。その寂しさがあります。その子たちも東中の校門の前であいさつすると、みんなきちんとかえってきます。道で会う人には、不審者だと思ふのか、あいさつがかえってこないことがさみしいと思います。

(委員) あいさつは結構みんな言ってくれると思います。登下校のとき、車で信号で止まっていると、信号のないところで、旗をもった6年生の子が先に下の子を行かせて、最後に旗をもっている上級生がきちんと車にお辞儀をしてから行く姿をみて、いい教育がされているなと心が温かくなったことを思い出しました。最近いろいろな子もいますが、学校でもきちんと指導されているし、家庭でもきちんと朝起きたらお父さんお母さんに「おはよう」とあいさつができてから、見ず知らずの人にもあいさつがきちんとできるのだと思います。

(委員) みんながみんなではありません。テニスラケットを抱えた自転車の集団の中の一人が「おはようございます、頑張ってください」という子どももいました。ここはまだ大丈夫と思って走りました。

(高寄教育長) 今年の兵庫県下の教頭試験を受けた倍率が1.09倍でした。とても少ないです。受けたら全て通るような状況です。それだけ教頭職・管理職の魅力がないということです。といいますのも、一つは、待遇面で管理職は賃金がどんどん抑えられています。もう一つは、いろいろな問題がすべて管理職に集まっているということです。かつては教頭にも教室にいて授業してくださいといっていました。最近では教室へ行かないでずっと職員室にいてくださいといっています。なぜかという、かかってくる担任への苦情対応をすべて教頭先生がお願いしますよ、という状況下になってきています。特に管理職の先生方の健康や意欲が薄れているといわれています。そうすると教育がうまく前へすまないこととなります。魚は頭から泳ぎます。学校の教師集団もやっぱり校長を頭にして前へ前へ進んでいかなければならないのですが、今頭に対する魅力が薄れているということです。これを解消するには、いろいろなことが必要なので、県教委へも要望はしているのですが、そういうふうな実態があるということです。もう一つは、町民のみなさんに知ってほしいのですが、先生方の勤務時間は基本的には8:00から16:30になっているということです。先生方には残業手当はありません。しかし、16:30に学校を出ているような先生はまずありません。その時間に帰っていれば、「先生は早く帰っている」と言われますし、朝も8:00に出勤しているような先生はほとんどありません。朝早くから夜遅くまで学校に出ているということは、それだけ子どもたちにかかわってくださっているということ

で、先生方に感謝以外の何物もありません。そこで、先生方の負担をできるだけ少なくして、先生に子どもに向き合う時間を確保してほしいということで、今、学校支援地域本部事業等を立ち上げ、学校の草引き・草刈や清掃作業等は地域の者がやってあげますよという取組をしております。徐々にではありますが、地域の方が学校へ草刈に入ってくださったり、地域も一緒になって教育を前に進めていかなければなりませんし、先ほどもお話しにあったように、スクールヘルパー等も通して、地域のお力を借りて、地域の子どものは地域で育てるというように、これからもご支援をお願いしていきたいと思っております。

(嶋田町長) 町全体で教育を考えていくことが大切です。一番教育全般を考えなければならぬ教頭先生が一番余裕がないのは困ったことです。私にも言えることですが、総務課も遅くまで電気を点けています。気が引けて仕方ありませんが、私の無力さからそうなっていると思います。お互いに考えていかなければなりません。これくらいで最後にしたいと思うのですが、私が最近一番ショックをうけたこととお話しさせていただいて、みなさんのご意見をお伺いして、まとまりのない形の話し合いでしたが、きっとまとめてくださると思います。先日の区長会で、宇賀津町という四国の坂出のちいさなちいさな町で、人口は多いのですが、塩田でつくった8平方キロの町へ行きました。人口は3万人を超えています。そこに入浜式の塩田を残した公園がありました。そこへ、幼稚園の子どもを引率された先生がきて、お弁当を食べておられました。私はかつて教師をしていた関係もあり、子どものところへ行って「弁当、おいしいか」と尋ねたところ、2種類の行動がでました。一つは、きれいなお弁当で、ミッキーマウス等をいっぱい飾ってもらったお弁当で、私に「見て見て」と持ってくるグループです。もう一つのグループは、お弁当にふたをして隠すグループです。その子のお弁当は、私が戦時中に食べていたお弁当とあまりかわらないのです。当時はなかなか白いご飯というのはありませんでしたが、それでも遠足のときは親はお弁当のときははずんで白いご飯を入れて、しかもゴマ塩をふりかけてくれました。私の遠足のときはそれが遠足のときは上等でしたが、そのときのお弁当とかわらないのです。かろうじてお母さんが努力されたのか、角煮の切ったものが端のほうにちょこんとおいてありました。その子はお弁当を隠すのです。この現実をみて私は悲しくなりました。一方でお弁当を誇らしげに見せにくるグループと、せっかくお弁当を食べているのに隠して私に見せないグループがあります。この格差を抱えての教育が現実だと思います。こういう現実を抱えて、本当に基礎学力というものを公教育で公平にと先生方が活動されています。福崎町はどう対処していけばいいのか、一言ずつ感想をお聞きしていきたいと思っております。お互いに出し合った感想は非常に貴重だったと思っております。もう一度改めて言いますが、町長部局へは真剣に話し合われた結果はそのまま教育委員会でまとめて出していただくということです。その上で、予算の配分をするというふうこれからされたいと思います。教育委員会の方で割り引いて、これでは話がかからないからと思わずに、まず出すことです。しかし、だされたこと全ては無理だと思っておりますが、まずは出すという方向をとっていただけるとありがたいと思っております。

(委員) 今、町長がおっしゃった弁当一つをとってみても、それが格差社会の表れなのです。その格差が塾へ行ける子、行けない子等に当然表れてきますが、そういうところの解消のために福崎町が今取り組んでいるのが、サマースクール・ウィンタースクールだと思います。これはものすごく画期的なことだと思います。できるだけ予算化していただいて、今のボランティアの先生を塾の先生にしていくなど、次の発展ができないかと思っています。

(委員) 実は同じ体験を私もしました。5月8日の花祭りのときに高岡小学校や幼稚園の子を招待して、花祭りを一緒にしてもらいました。そのときに一緒にお弁当を持ってきてもらって、お寺のまわりで食べました。やっぱり私も同じで、「おいしいか」

とのぞきにいきました。きれいなお弁当の子もいましたが、もう一人の子は後ろを向きました。いろいろあるのだと思いますが、他人の目を気にする親の社会と子どもも同じでした。子どもも恥ずかしいと思っているのかどうなのか、この子のお弁当に比べて私のお弁当は、ということなのでしょうが、忘れてはいけないのは、親が一生懸命作っているということがわかる子どもになってほしいということです。もしかすると、他人のと比べると見劣りするお弁当かもしれませんが、やっぱり遠足に出て行くといったときに、お母さんがあなたのために作ってくれたお弁当なんだということを思える子に育ててほしいということです。他人と比べる社会の中においてはそういうことはなかなかわからないかもしれないけど、いつか「ああ、お母さんも働いて大変な中で、私のために簡単なお弁当だったかもしれないけど、毎回作ってくれてたんだ」ということがわかる子に最後になってほしいと思います。小さいときには無理でしょうが、母親の愛情が感じられるような、家庭の中の親子のいろいろなものがあって、子どもが育ててほしいなと思いました。

(委員) さきほどおっしゃったように、教育委員になって、こんなことをしてくださっているのかと驚き感心したことが、サマースクールとウィンタースクールでした。中学校のウィンタースクールで入試を目指している子どもたちが一生懸命勉強している場に行って、こういうことをしてくださっていることを地域の一人としてありがたいと思いました。他町ではそんなことをされているのかと思いました。教育は公平にということで、自分の身近で家の状況で塾に行けないという話や、母子家庭になってお金の余裕がなくなって習い事をやめたという、何気ない言葉を聞いて、やっぱりそうなのかという最近思いました。また、社会人になっても大学のときの奨学金が還せない「奨学金難民」ということを聞きました。夫婦で何百万と奨学金を還していくという現状があるようで、そうするとある程度還さなくていい奨学金もあるそうです。そういう記事を新聞で読んで、地域の行政の中で子どもたちに光をあててくれたらいいなと思いました。

(委員) そのお弁当をお母さんがどういうふうな思いでつくられたのかなと思います。実際に、本当に忙しくて、それが精一杯だったかもしれません。でも、事実子どもにはお弁当を入れてあげているので、忙しいけど一生懸命にやったのよ、愛情はあるのよというお弁当だと、そのときは恥ずかしくて隠すかもしれませんが、きっとその気持ちは大きくなったときに伝わっていると思います。そういうお母さんであってほしいと思います。そういうことも理解できる子どもに育ててほしいとも思います。そういう状態を先生がご存知であれば、そういう気持ちも汲みとっていただいて、先生として子どもが傷つかないように、先生に家庭と話し合いをするなどしてフォローしていただけるとうれしいという気がしました。

(高寄教育長) 私は「自助・共助・公助」の順番は変えてはいけないと思います。この順番でいくべきだと思います。まずは自分自身が、自分の家庭がまずがんばってみて、それでも十分なことができない、満足なことができないければ、周りの人々や親戚の支援を願い、それでも足りなければ公の力を借りるということで、最初からなんでもかんでも公助という発想をしていくのではなく、まずはやっぱり自分たちが頑張るところからスタートしてほしいと思いますし、それでもがんばれないところは周りが、公が支援していくべきだと思います。

(嶋田町長) 約2時間30分、非常に長い間お話しをしていただきました。当初の目的に叶っているのかどうかはよくわかりませんが、しかし、それぞれの皆様方の教育に対する思いを語っていただきました。それはきっと教育行政にも生きるし、町行政にもきっと生きてくる、反映してくると思っています。今言いましたように、かなり格差もあり状況も違う、予算も厳しい、ゆとりもないという面もあると思いますが、そういう中だからこそ、創意工夫が生きてくるという面もあるかと思っていますので、今

後とも福崎町の教育行政が前に進むことを願って終わりたいと思います。

5、閉会

(高寄教育長) ありがとうございます。第2回目の総合教育会議ということで、私たちも初めてのことだったのですが、いろいろいいお話しができたと思います。方丈記の書き出しに「ゆく川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」とありますが、そのとおりだと思います。この教育界、不易と流行をくりかえしながら、絶えず流れ続けるわけですが、この20年というもの、嶋田町政20年の行政の積み上げが、今日の福崎町の教育の基盤となっているということを忘れてはいけないと思います。私たちはその基盤の上にたって、今後、継続・発展をさせて、福崎町の子どもたちのために、いや福崎町民のために教育の分野から頑張っていきたいと思います。

(嶋田町長) 本当に長い間お世話になり、ありがとうございます。退任したあともどうぞ仲良くしていただきたいと思います。

以 上

署名委員 桑 谷 祐 顕

署名委員 藤 本 照 子